

研究主題「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるための指導の工夫 —視聴覚教材の適切な活用を通して—

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
足立区立大谷田小学校 教諭 安藤 睦

I 研究のねらい

21世紀は、知識基盤社会、そしてグローバル化の時代である。国際競争の激化とともに、異なる文化との共存、国際協力の重要性も増してきており、学校教育において外国語教育が重要な課題の一つとなっている。新学習指導要領より新たに導入された外国語活動は「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことを目標としている。

本研究では、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ部分に着目した。それは、児童に外国語の音声や基本的な表現に効果的に慣れ親しませることで、児童の関心や意欲が高まり、それがコミュニケーション活動への積極的な関わりへとつながるだろうと考えたからである。

また、小学校学習指導要領解説外国語活動編（平成20年8月）は、「体験的に「聞くこと」「話すこと」を通して音声や表現に慣れ親しむこと」「音声を取り扱う場合にはCD、DVDなどの視聴覚教材を積極的に活用すること」としている。さらに、児童に体験的に且つ、興味・関心をもって慣れ親しませるためには単に視聴覚教材を繰り返し聞かせるのではなく、その言語の意味や内容を意識させることが必要だと考え研究主題を設定した。

II 研究の内容と方法

【基礎研究】

- ・ 英語ノート及びノート付属デジタル教材の分析
- ・ 意識して聞くことの研究
- ・ 視聴覚教材の検討
- ・ 英語ノート指導資料に示される評価の分析

【調査研究】

- ・ 検証授業の実施
- ・ 児童の意識調査の実施

【カリキュラム開発研究】

- ・ 英語ノート付属デジタル教材を活用した自作のデジタル教材の開発
- ・ 一つの単元を例に視聴覚教材等を活用した、学習指導案の作成
- ・ 英語ノート指導資料に記されている評価の内容の一覧表や学習の評価項目例の作成

III 研究の結果と考察

1 基礎研究について

(1) 英語ノート及びノート付属デジタル教材の分析

文部科学省より配布された共通教材である英語ノートは、1単元がほぼ4時間構成となっており、第1時には単元の導入として「外国語の文化や表現を知る」、第2時には「自分から表現する」、第3時、第4時には「情報交換をしたり交流したりする」「ショーアンドテルや発表をする」という構成になっている。

計測の結果、英語ノート付属デジタル教材の会話部分の速度の平均は約107wpm（ワードパーミニッツ、1分当たりに発する単語数）である。なお、一般的に英語話者の自然な音声言語の速度は、160～180wpmと言われている。

(2) 意識して聞く（会話の間をあける・繰り返し聞く・課題をもって聞く）ことの研究

ア 言語習得等について（会話の間をあける）

第二言語習得における認知プロセスは一般的に、気付き、理解、内在化（認知）であると言われている。「『気付き』とは、学習者が自分の耳や目を通して入ってくる言語項目に気付くこと、つまり、注意(attention)を向けることが、第二言語習得の最初のプロセスである。(中略)言語習得は、学習者の動機や目標言語を話す人々への態度、第二言語使用に関わる不安などの情意的要因に左右される。」(Schmidt 2001) すなわち、第二言語と外国語という違いはあるものの言語習得という観点で見ると、言語への意欲、関心をもって取り組むことが言語認知につながると考えられる。

イ 音声教材の効果的な活用について（繰り返し聞く）

Piaget の発達理論によると、脳の処理速度の発達は、低中学年は具体的操作段階にあたるので意識することなく言語に接することができるが、高学年では抽象的操作段階に入るので、言語を少し意識させる活動が良いとされている。すなわち、音声教材の間をあけたり、繰り返したりする操作は言語の意味や内容を意識させる効果があると考えられる。

ウ 課題を明確にする発問について（課題をもって聞く）

音声に慣れ親しませるためとはいえ、単に聞かせるだけでは児童は飽きてしまう。そこで、課題を明確に提示することで、児童は提示された単語やフレーズに限定して意識を高めて聞き取ることができ、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができる。なお、本研究では、デジタル教材とは文部科学省発行の英語ノート付属音声CDやDVDを指し、視聴覚教材とはそれ以外の授業で使用した視覚的聴覚的教材を示すことと定義する。

(3) 視聴覚教材の検討（効果的に慣れ親しむ工夫）

「脳内での情報の流れに注目してみると、言語情報は、聴覚、視覚それぞれの手段を通して脳内に入りウェルニッケ野にたどりついた後は、同様の経路をたどって理解される。」(岩田誠 1996) 「視覚教材と聴覚教材とを合わせることで、知覚認知を補助する働きがある。」(Jaen Piaget 1950) すなわち、言語情報を提示するときに、聴覚のみならず視覚情報を提示することで、より言語を意識し、理解が深まり、外国語に慣れ親しむことができる。

2 調査研究について

表 1 単元の内容

時	◆主な活動	◆使用した視聴覚教材
1/4	衣服クイズ・ファッションカード作り	ゆっくり・間・繰り返し（5回）・絵カード（計10分）
2/4	ポイントゲーム・メモリーゲーム	ゆっくり・間・繰り返し（7回）・絵カード（計18分）
3/4	疑似買物体験	間・繰り返し（4回）・絵カード（計8分）
4/4	買ったものクイズ・紹介発表	間・繰り返し（10回）・絵カード（計15分）

(1) 検証授業の実施

次を手だてとして、1単元の指導を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませた。

- ① 会話の間をあけたデジタル教材等の活用
- ② 視聴覚教材の活用の工夫
- ③ 視聴覚教材の複数回提示

検証授業の前後に、児童の外国語活動に関する意識とデジタル教材などの視聴覚教材についての意識を探るために、都内公立小学校5年生の児童68名(回収率92%)を対象に、4件法で質問紙法による調査を行った。

(2) 児童の意識調査の実施と結果

ア 「自分から進んで英語やジェスチャーを使った」児童の変容

「自分から進んで英語やジェスチャーを使った」という項目では、単元指導前では平均2.1点から単元指導後には平均3.1点に向上した(4点中)。

イ 「自分から進んで英語やジェスチャーを使った」児童に関する分析

単元指導後について、調査結果を分析するに当たって、各項目の単純集計を行うとともに、「自分から進んで英語やジェスチャーを使った」という項目と指導にかかわる項目についての「ピアソンの χ^2 検定」を行った。

(ア) 文ごとに間をあけた英語を聞くこと

- ・ 「会話ごとに間をあけたので、英語の言い方が分かった ($\chi^2(1, N=63)=9.55, p<.01$)」
- ・ 「会話ごとに間をあけたので、英語を使ってみようと思った ($\chi^2(1, N=63)=7.271, p<.01$)」

(イ) 絵カードなどを活用すること

- ・ 「絵カードなどを見たので、英語が分かりやすかった ($\chi^2(1, N=63)=6.548, p<.05$)」
- ・ 「絵カードなどを見たので、英語の言い方が分かった ($\chi^2(1, N=63)=10.704, p<.05$)」
- ・ 「絵カードなどを見たので、英語を使ってみようと思った ($\chi^2(1, N=63)=3.844, p<.05$)」

(ウ) 繰り返し聞くこと

- ・ 「繰り返し聞いたので、英語が分かりやすかった ($\chi^2(1, N=63)=5.392, p<.05$)」
- ・ 「繰り返し聞いたので、英語の言い方が分かった ($\chi^2(1, N=63)=3.95, p<.05$)」
- ・ 「繰り返し聞いたので、英語を使ってみようと思った ($\chi^2(1, N=63)=3.844, p<.05$)」

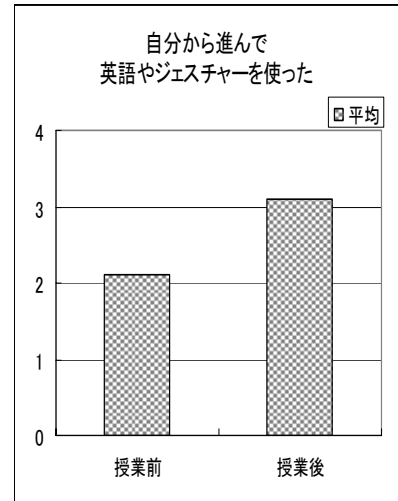
(3) 考察

以上の結果から、自分から進んで英語を話したり、ジェスチャーを使ったりしてみようという意欲と、「文ごとに間をあけた英語を聞く」「絵カードなどを見る」「繰り返し聞く」などの視聴覚教材を適切に活用した工夫において、関係があることが分かった。

このことから児童の英語やジェスチャーを使ってみようという意欲が向上した要因には、外国語の音声や基本的な表現等に慣れ親しむ機会を適切に指導に取り入れることが有効であったと言える。

よって、本研究でねらいとした視聴覚教材の適切な活用を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることができたと考える。

表2 児童の変容



3 カリキュラム開発研究について

(1) 自作デジタル教材の開発

英語ノート付属デジタル教材（音声CD）を活用し、その会話の間を少し長めに設定したり、チャンツの速度を変化させたり、必要な会話部分のみ複数回繰り返した音声素材を作成した。

(2) 一つの単元を例に視聴覚教材等を活用した学習指導案の作成

英語ノート1の「いろいろな衣装を知ろう」の学習単元を例にデジタル教材と必要な絵カードや絵文字を効果的に活用した学習指導案を示した。

(3) 外国語活動の評価規準例一覧の作成

指導にあたっては、評価の観点を明確にすることが大切である。そこで、英語ノート指導資料を参考に、評価の規準例や、学習の自己評価項目例について示した。（表3）

表3 英語ノート評価規準例及び自己評価項目例

単元	時間	指導内容	英語ノートに記されている評価の観点例			自己評価項目例1	自己評価項目例2
			言語や文化について体験的に理解を深める内容	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ内容		
5	いろいろな衣装を知ろう	1 いろいろな衣服	世界には様々な衣服があることを理解する。（行動観察）		指導者の話を、興味を持って聞き、様々な衣服の言い方を理解しようとしている。（行動観察）	世界には様々な衣服があることが分かった。	衣服の言い方が分かった。
		2 欲しいものは何ですか		1対1で質問された際に、自分の思いを伝えようとしている。（行動観察）	買物の場面での表現を言う。（行動観察）	自分の気持ちを伝えようとした。	買物の言い方が分かった。
		3 買物をしよう		相手が気持ちよく買物ができるような声かけをしようとする。（行動観察）	好みをはっきりと言い、自分の欲しい衣服をもらおう。（行動観察・用紙点検）	好みをはっきりと言って、欲しい服をもらおうとした。	相手が気持ちよく買物ができるように工夫した。
		4 買ったものを発表しよう			自分の買った衣服を紹介する。（行動観察）	自分のコーディネートを紹介しようとした。	

IV 今後の課題

作成した英語ノート評価規準例及び自己評価項目例などの研究の成果について、その妥当性を検証し、工夫や改善を図りたい。